

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

事業所名: グループホーム 雀のお宿

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念「その人なりの生活に寄り添い 安心した尊厳ある暮らしを保障する」	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員室、食堂、廊下に理念を掲示している。また、職員会議のレジュメにも毎月掲載し職員間で共有を図っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議での報告や地域の方々も交えた行事の実施。また、家族会議や面会時、定期発行の「雀のお宿通信」等を通し伝えている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣商店への買い物、地域の清掃、常会への出席等を通しグループホームを知ってもらい、気軽に立ち寄りしてもらえるように声掛けしている。地域との結びつきをより密に、また気軽に立ち寄ることの出来るよう、地域の「こども110番」と「防犯パトロール」登録を進めている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	常会、清掃作業、運動会、文化祭等に参加し交流出来る様務めている。	

事業所名：グループホーム 雀のお宿

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	在宅介護支援センター要請により地域介護予防講座に協力した。24時間職員が常駐している利点を活かし地域「こども110番」や防犯パトロール登録を進めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を通じて出た問題点を職員会議等で話し合い質の向上や改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、市職員、地域の民生委員や老人クラブの方に出席していただき、発言のしやすい環境作りに努め意見をサービス向上につなげている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席要請や市開催のグループホーム会議への参加のほか、市役所へ出向いて現況や地域の動向について情報交換をしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用者もいる。職員会議内でも伝達をしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はもちろんのこと言葉による虐待にならぬ様職員間で話し合いをしている。		

事業所名：グループホーム 雀のお宿

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際本人家族と面談し不安や疑問点を伺っている。グループホーム内の見学も常時行なっている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人、家族が苦情を言えるような環境作りに努めるとともに苦情箱を設置している。苦情があった際には会議等で話し合い改善を行なっている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭出納帳をコピーし、家族に毎月送付している。また、健康状態に変化があった時は連絡報告している。職員の異動があった時は「雀のお宿通信」で報告している。毎月の請求書とともに利用者1人1人の近況報告を添え送付している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画作成時や面会時に気軽に話してもらえるよう努めている。苦情箱の設置、苦情窓口担当を決めており苦情があった時の解決を行っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や毎週のケースカンファレンスで意見や提案を話し合っている。日々の生活の中で気付きがあった時は随時話し合う機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況や運営に必要な体制は、調整するよう努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の働き易い勤務体制、環境作りに努め健康状態、精神的安定を図っている。昨年8月以降離職者はいない。		

事業所名：グループホーム 雀のお宿

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修、介護支援専門員研修、その他の研修にも積極的に参加するとともに、不定期だが施設内研修を実施し職員のスキルアップを図っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム会議に参加し情報や意見交換している。県グループホーム協会にも毎回参加している。地域内事業所に秋祭りの案内状を送付し参加してもらっている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月3回の希望休を受け入れている。休憩時間が時間通り取れないことがある。職員間で協力して休憩時間が確保されるよう努め行きたい。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修後の伝達講習の実施や外部研修で職員のモチベーション向上を図っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人、家族に気軽に見学に来ていただいたり、自宅への訪問をさせていただいている。お茶を飲みながら雑談したり話しやすい環境作りに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人、家族に気軽に見学に来ていただいたり、自宅への訪問をさせていただいている。お茶を飲みながら雑談したり話しやすい環境作りに努めている。また、担当の居宅ケアマネジャーとも連絡情報交換している。	

事業所名：グループホーム 雀のお宿

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の求めている物に「ずれ」がある事が多い。 本人家族ともに満足出来る様な対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	常時見学可能なほか、希望時には体験入所を行なう事も可能。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「面倒を見ている」「世話をしている」といった上から目線ではなく「共に過ごす年長者」「人生の先輩」という気持ちで接している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時の話しやすい環境作りや毎月の請求書とともに利用者1人1人の近況報告、行事や普段の生活の写真を添え送付している。必要物品購入時には必要性を説明し協力を頂いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	話しやすい環境作りに努め、本人、家族の両面の意見を尊重しよい関係が保てるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への訪問、外出は随時行なっているほか年賀状の返事を書いたりすることで馴染みの人との関係が継続できるよう努めている。馴染みの場所が遠方だとなかなか外出できない。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	人間なのでそれぞれ個性や性格があり、合わない利用者もいる。無理に合わせるのではなく、職員が間に入ることでよい関係が保てるよう配慮している。		

事業所名：グループホーム 雀のお宿

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了後も必要であれば支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活スタイルやその時々のお思いを受け止め、食事、入浴、就寝時間等出来る限り意向に沿うよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメント、ケースカンファレンス、毎日の生活の中での気づきを会議や引継ぎ等で共有している。認知症アセスメントツール「センター方式」導入予定		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	業務日誌、健康チェック表、申し送りノート等に記録し引き継ぎ時に伝達している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族に面会時や電話で要望を聞き、月1回ごと家族に計画書を送付している。毎週行なうケースカンファレンスや日々の情報伝達を通し介護計画を立案している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間は必要に応じて見直ししている。心身の変化に対応する介護は計画の見直し期間に関係なく行っている。		

事業所名：グループホーム 雀のお宿

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を毎日記録している。申し送り等で職員全員が確認し情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一敷地内のデイサービスを訪問したり、グループホームでの行事にデイサービスが参加したり交流を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回防災訓練の実施、地域行事への参加。ボランティアの方々や民生委員等の協力を得ながら、外部との融合を図っている。運営推進会議に地域の警察官や婦人会参加を検討している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険サービスは併用できないが必要に応じ後見人制度を利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらうほか、市役所訪問時情報交換を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のほかに必要な専門医の受診を行なっている。		

事業所名：グループホーム 雀のお宿

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族の協力を得ながら必要に応じ受診をしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者の状態変化があった時等、同一敷地内デイサービス看護師に支援要請をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際家族の要望を聞いたり、病院と情報交換をし本人にとって良いと思われる措置が取れるよう連携している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時等に終末期、重度化時の意向を本人、家族から聞くよう努めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	加齢や病気等で重度化した時また終末期を迎えたとき本人、家族の意向を聞き、医療との連携も図りながら一番良いと思われる方針を決めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む際、健康状態や精神状態他細かな情報交換を行い苦痛がないよう努めている。		

事業所名：グループホーム 雀のお宿

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いに気をつけ自尊心を傷つけないよう注意している。個人情報には職務以外で他言しないよう就業規則で定められている。不適切な言葉遣いは知らず知らずに使用している場合もあるので職員間で注意しあう。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	こちらからの提供でなく、本人が進んで行ないたいと思う気持ちを尊重している。個々の得意分野を知り職員間で共有している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、就寝時間等個々の習慣やその時々で思いで出来る限り対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	就寝前には寝巻きへの着替え、起床時には洋服への着替えを行なっている。家族の協力も得ながら季節ごとに衣類の調整、衣替えを行なっている。理美容もそれぞれの決まった店に出向いている。車椅子の利用者は出張美容室を利用している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	気に入らない献立のあった時は可能な範囲で代替品を用意している。簡単な事、短時間でも台所に入ってもらえるよう援助し料理を楽しむよう努めている。また、庭の畑の野菜と一緒に収穫し食材にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒の生活歴がある利用者は毎晩晩酌をしている。喫煙は敷地内前面禁煙としている。おやつは家族の協力を得ながら好きなものを用意しているが疾患によりこちらで管理する場合もある。	

事業所名：グループホーム 雀のお宿

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	健康チェック表に記録し排泄パターンや適した排泄用具を使用している。個々に合わせた排泄介助を行なうとともに羞恥心に配慮している。職員同士の報告の中でも尿や便を別の言葉に言い換え利用者の羞恥心に配慮する。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に日曜日を除く午後援助しているが、状況や本人希望があり人員的余裕がある時は午前や夜間の入浴を援助している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活リズム、習慣を尊重し就寝時間は人それぞれ。定期的な布団干しやシーツ洗濯、寝具調整を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴、得意、不得手を把握し本人の持っている能力を活かすよう配慮している。外出、外食、買い物、行事等で生活の中で楽しみも作るよう努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多くの方の現金をグループホームが家族から預り管理している。買い物に行く時等は小銭を持ってもらい買い物を楽しむ事もある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的な外出のほかにも天気の良い日などは公園等に外出している。勤務体制や体調不良の利用者がいる時等希望に沿えないときもある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得てともに外出したり、時事の花や景色を楽しむため新聞やニュースを観てドライブに出かけている。		

事業所名：グループホーム 雀のお宿

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の返事を書くのを支援したり、電話の支援も行なっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	基本的に面会時間制限はないのでいつでも面会可能。利用者の部屋他食堂も自由に使用していただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による弊害が職員間に浸透し目に見える意味での身体拘束はない。言葉による拘束は知らず知らず行なっている可能性があり、悪気は無くとも利用者には拘束になっていることがありうるので不適切と感じたときには職員間で注意していく。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	裏玄関は施錠しているが他、入り口や窓は開放する事が多い。その時々々の精神状態や所在確認、入り口にセンサーを設置し離脱の早期発見に努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	精神不安定時他、所在確認を職員間で努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	縫い物道具一式を持っている利用者は縫い物を行なうとき職員が見守りをしている。また、グループホーム内の備品を使用するときも同様に見守りしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	状態に応じ過度にならぬよう適切な介護をしている。誤嚥防止の為食事時は職員が一緒に食べ見守りしている。誤薬防止の為、状態に応じ職員が服薬管理をしている。職員会議やケースカンファレンス等でも事故防止の検討を行なっている。		

事業所名：グループホーム 雀のお宿

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に普通救命法を職員全員が受講している。速やかに適切な対応が行なえるよう職員間で共有している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を行なっている。夜勤帯等職員1人体制での避難訓練はまだ実施していない。消防用具の点検は業者に定期的に依頼している。防火自主管理表を記入している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	月1回近況報告で健康状態のを発送するほか状態変化があった時は家族に随時連絡している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルサインチェック他いつもと違った様子がある時は注意し経過観察している。また職員の引継ぎや健康チェック表、個人記録を通し職員間の共有を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理簿で個人別に綴ってある。また、服薬に変化があった利用者は引継ぎ時や服薬管理のホワイトボードに記載し職員全員が確認している。副作用等関係医療機関に報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度な水分補給のほか、1日交代で朝食にヨーグルト、野菜ジュースを提供している。便秘している利用者の腹圧マッサージをしている。軟下剤を服用している利用者はいるが浣腸や摘便はせず自然排便がある。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きは声掛けや手助けをしないと行なわない利用者が多い。就寝前は出来る事が多いが、食後なかなか実施出来ていない。		

事業所名：グループホーム 雀のお宿

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成。個々にあわせて量を加減している。水分量は食事時、10:00、15:00、19:30のティータイムや入浴後その他随時提供している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は利用者、職員とも年2回実施。ノロウイルス等感染症はマニュアル作成し職員間で対応を周知徹底している。またノロウイルス対策用のキットを用意しすぐに対応出来る様食堂に設置してある。手洗いは液体洗剤を使用しペーパータオルでふき取っている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	地域の商店やスーパー、生協や食材宅配業者で購入し賞味、消費期限の確認を行なって使用している。また献立は1週間冷凍保管している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	植木、草花が四季を通してあり自然に囲まれている。玄関にはスロープがあり車椅子利用者でも出入りし易いようになっている。門は開放してあり気軽に立ち寄れる事が出来る様配慮している。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には利用者が庭から持って来た草花が飾られており室内でも四季を感じられるようになっている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室なので一人になりたい時、休みたい時は居室で休んでいる。気のあった利用者は居室を行き来することもある。廊下や玄関にも椅子を設置してある。	

事業所名：グループホーム 雀のお宿

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	随時本人の使い慣れた物、仏壇等持参し個々の自室を作っている。また、生活習慣に合わせ畳に布団を敷き休んでいる利用者も居る。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇は各居室に設置されており随時使用している。また、天気の良い日には窓を開け空気の循環をしている。室温管理のほか発汗や冷え等の全身状態にも気を配り衣類や布団の管理をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はフローリングでバリアフリー個々の生活や状態に合わせた履物を履いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	分かり易い標示をしているが利用者によりまた状態により分らない方もいるので職員が声掛けしている。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内に草花を植えたり畑に農作物を植え職員と利用者が一緒に手入れをし成長や収穫を楽しみにしている。また庭の梅やすもも等収穫しみんなで漬けたりジャムにしている。		

事業所名：グループホーム 雀のお宿

V. サービスの成果に関する項目		
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/> ③たまにある
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)